



樋口 良昭さん(鮎貝)
東北電力検針員

48歳

昭和39年生まれ

- ①妻、両親の4人家族
- ②ゴルフ
- ③人とコミュニケーションをとること
- ④東日本大震災。車を使う仕事なので、当時のガソリン不足は大変だった。ガソリンを分けてもらったり、新潟でガソリンをつめたのが心に残っています（ついでに鮮魚も求めました）。
- ⑤震災を通して、普通に生活できることのありがたさが身にしみて分かったので、家族が健康に暮らせること。あとは、同級生で孫がいる人もいるので、孫の顔が見ればいいかなあ。
- ⑥荒砥橋の早期架け替えや町民体育館建設によるスポーツ公園周辺の整備、企業誘致による雇用の確保をお願いします。それらを通して東西の隔たりをなくし、若者が残ってくれる活気ある町になってほしい。



宮城 和美さん(荒砥乙)
会社員

- ①母、息子2人の4人家族
- ②ラーメン屋めぐり
- ③ペットのしつけ、ビール飲み
- ④東日本大震災。停電の中、ペットボトルにお湯を入れて家族が身を寄せ合ってすごした夜は忘れられないです。あとは、仕事に追われあっという間に終わった1年でした。
- ⑤同級会などの集まりの場に行くと、亡くなっている同級生も結構いるので、まずは、家族ともども健康に気をつけて過ごしたいです。
- ⑥仕事で置賜管内を回るのですが、白鷹の人は特におだやかでいい人が多いなあと感じています。これは、きっと住んでいる環境がいいからだと思うのですが、これからもこの環境（田舎っぼさ）を維持してほしいと思います。



丸川 紀子さん(横田尻)
自営業

60歳

昭和27年生まれ

- ①息子夫婦、孫2人、母の6人家族
- ②きれいな風景などを写真に撮ること。
- ③新しいことにチャレンジすること。
- ④東日本大震災による原発事故。放射能汚染による風評被害で肉の価格が低迷し、大打撃を受けました。あとは娘をお嫁に出したことです（ほっとしました）。
- ⑤まずは家族が健康でおだやかに過ごせること。そして、仕事も充実させ、みなさんに愛される『肉の丸川』にしていきたいと思います。
- ⑥町には文化や産業など良いものがたくさんありますが、「これだ！」というものが無いように感じます。何か一つ町民が誇れるものを追求してほしいです。また、いつでも安心して子どもたちを遊ばせることができる施設があればと思います。



紺野 伊久雄さん(畔藤)
どりいむ農園社長

- ①妻、娘夫婦、孫3人、母の8人家族
- ②色々な土地の美味しいものを食べる
- ③お酒飲み
- ④やっぱり東日本大震災。もう少し復電に時間がかかっていたらハウス栽培の野菜も相当被害を受けていたかもしれない。あとは、りんごの不作。昨年の出来はこれまでで一番ひどかったんじゃないかと思う。
- ⑤食べ物は、人間の体をつくったり病気を予防するためにとっても重要なもので、農業はみんなの命を守る産業だと思っている。これまで以上に安全安心な農作物作りに心がけ、おいしい物を提供していきたい。
- ⑥農業も含めた雇用の場を確保していただき、子どもたちの元気な声がひびく町であってほしい。